

門前仲町駅

① 渋沢栄一住居跡(渋澤倉庫発祥の地)

日本資本主義の生みの親である、渋沢栄一は、「我が国の商工業を正しく育成するためには、銀行、運送、保険などと共に倉庫業の完全な発達が不可欠だ」の信念のもと、明治30年3月、私邸に渋澤倉庫部を創業した。

② 彩茶庵跡

濡縁に腰かけた旅姿の芭蕉が迎えてくれるこの辺りに、芭蕉の高弟・杉山杉風(すぎやまさんふう)の庵室があり、芭蕉は元禄2年の2月末に、芭蕉庵からここに移り約1ヶ月滞在した後、3月27日早朝「奥の細道」の長旅に出立しました。

③ 芭蕉俳句の散歩道

採茶庵(さいとあん)のすぐ近くを流れる仙台堀川に沿って、「芭蕉俳句の散歩道」が展開されています。その「散歩道」には、芭蕉の有名な俳句が札に書かれて並べられてあります。

④ 清澄庭園

享保年間(1716～1736年)に、下総国関宿の藩主・久世大和守の下屋敷となり、その後江戸の豪商・紀伊國屋文左衛門の屋敷跡と言われています。明治11年、岩崎弥太郎が荒廃していたこの邸地を買い取り、社員の慰安や貴賓を招待する場所として庭園造成を計画、明治13年に「深川親睦園」として竣工をみました。

⑤ 深川江戸資料館

地下1階から地上2階、三層に渡る高い吹抜けの大空間に展開する江戸時代の深川の町。江戸時代後期、天保年間頃の深川佐賀町の街並みを再現した展示です。時代や場所だけでなく、そこに住む人々の家族構成や職業、年齢まで設定し、それぞれの暮らしぶりにあった生活用品を展示し、触れて楽しむことができます。



⑥ 臨川寺

延宝8年(1680)深川に移り住んだ松尾芭蕉は二歳年上の仏頂禅師の人柄に感服し、足繁く参禅するようになりました。まだ宗房と称していた芭蕉は、禅師と禅問答から得たとされる俳号が「桃青」、その後天和元年(1681)、38歳の時に「芭蕉」となりました。「玄武仏碑」をはじめ、「梅花仏碑」「墨直しの碑」「芭蕉由緒の碑」などの石碑が残され芭蕉ゆかりの寺として知られています。



⑦ 横綱通り

この付近には5つの相撲部屋があり、「横綱通り」と呼ばれています。「鍬山部屋」(元関脇・寺尾)、「尾車部屋」(元関脇・琴風)、「大鵬道場・大嶽部屋」(元十両・大竜)、「山響部屋」(元前頭・巖雄)、「高田川部屋」(元関脇・安芸乃島)があります。

⑧ 万年橋

江戸時代には、富士山がきれいに見える名所として知られ、北斎の「富嶽三十六景・深川万年橋下」や広重の「名所江戸百景・深川万年橋」などに描かれました。現在の鋼橋は昭和5年(1930)に震災復興橋として架けられたものです。



⑨ 芭蕉史跡展望庭園

平成7年に芭蕉記念館の分館として建設されました。台上から川面を見渡す芭蕉座像は、日中には入口の方を、夕方には清洲橋方向へと向きを変え、ライトアップされた姿で隅田川を行く船を見送ります。

⑩ 隅田川テラス

隅田川東岸のテラスには「大川端芭蕉句選」として、9句の句碑プレートが点々とつながっています。全て芭蕉が芭蕉庵で詠んだ句で、年代順に並び、上流側が新しい句になっています。

⑪ 芭蕉記念館

松尾芭蕉は延宝8年(1680)、江戸日本橋から深川の草庵に移り、この庵を拠点に新しく俳諧活動を展開しました。このゆかりの地に芭蕉の業績を顕彰することを目的として、昭和56年(1981)に開館された資料館です。

清澄白河駅